

助成者	高野 孝子	活動期間	2014年4月～2017年3月
所属機関	特定非営利活動法人 ECOPLUS	職名	代表理事

ヤップ島の水と緑保全プロジェクト

【活動場所】ミクロネシア連邦 ヤップ島

【事業目的】ミクロネシア連邦のヤップ島ではサンゴ礁の流域で囲まれた海域での漁を生活基盤にしてきたが、近年は海洋資源の減少や生態系の悪化に苦しんでいる。しかしながら、その原因を究明する科学的調査はなされておらず、地区全体の生態系保全活動を統括するタミル自然保護基金（TRCT）が唯一の拠り所とされている。本事業は、TRCTの趣旨に沿って彼らの活動を支援することで、島民自らが伝統知や文化に則って、これまで意識してこなかった環境保全の考え方を捉え直すことを目的に実施する。



台風で横倒しとなった標識の再設置



育成している稚貝のモニタリング

【活動内容】

- ①禁漁区への標識の設置と維持管理：禁漁区は東西、南北各4kmのL字型で、約1kmの幅。標識は縦横約50cm、厚さ20cmの土台に長さ3mの中空筒構造、重さ100kgで手作り筏で運搬、計90本設置。台風で横倒しになった標識の立て直し。
- ②禁漁区への監視活動：調査14回、監視活動計94回。浮船監視施設の設置。
- ③啓発活動：資源保護と禁漁区設定のポスター、パンフレットの作成。資源保護の重要性を訴える説明会開催。意識調査の実施。

【活動成果】

禁漁区の標識は、繰り返し訪れる台風で何度も倒されたが、都度修復作業を行うことで禁漁区の維持管理が行われた。監視活動も年々工夫と組織化により回数が増え、禁漁区の水質改善が見られ、ほぼ絶滅していたシャコガイの稚貝の育成も始められた。密漁による漁民2名の摘発も行われ、罰金や処分を含めた社会の新たなルールづくりの議論も始まっている。この3年間の活動を通じて、TRCTは外部からのボランティアや視察を積極的に受け入れ、保全活動の協力とともに、協力金や寄付という形で収入を確保する可能性が見えてきた。